

浄化センターへ行。て学んだこと

伊勢木 美音

毎日、私たちの生活に当たり前のようである「水」。どのようにして私たちの家に安全な水が運ばれてきているのか、その水の「じゆんかん」を、この見学を通して分かることができました。

浄化センターの中に入ると、思わず息を止めそうになっ。てしま。う。よ。う。な、少。し。く。さ。い。水。の。に。お。い。が。し。ま。し。た。そ。の。水。を、三。六。五。日、休。む。こ。と。な。く。機。か。い。や。人。が。は。た。ら。い。て、き。れ。い。な。水。に。し。て。川。に。も。ど。し。て。い。る。と。知。り、「き。た。な。い。水。は、ど。う。や。っ。て。き。れ。い。に。な。る。か。な。ん。て。考。え。た。こ。と。も。な。か。っ。た。」と、少。し。お。ど。ろ。き。ま。し。た。そ。し。て、水。は。休。む。こ。と。な。く。姿。を。か。え。て。私。た。ち。の。生。活。を。支。え。て。く。れ。て。い。る。こ。と。に。あ。ら。た。め。て。感。し。や。の。気。持。ち。を。持。ち。ま。し。た。

社会の勉強で世界の約十二億人の人が安全な水を使うことができないと習いました。そして、地球温暖化で雨が降り、さばくにな

ている土地があることも本で知りました。
私たち日本人は、じゅ口をひねると安全な水
が出てくることを少し当たり前だと思いき
て、水をムダにしていることも多いように思
います。

浄化センターに行つて、私が一番おどろき
きようみを持つたのは、「び生物」が水をき
れいに行っていることです。「え、び生物
て気持ち悪くないの?」
「機械ではなくても
きれいに出来るの?」と不思議でした。でも、

び生物がきれいにしてくれた水を見て、ゴミ
をエサとして食べてくれているび生物のはた
らきにとても感じやしました。気持ち悪いと
思つたことをこうかいました。

私は、この見学を通して心に決めた事が一
つあります。それは「節水」です。これだけ
たくさんの人やび生物たちがきれいにしてく
れた水を大切に使わないという事です。前
に実験をしてシャワーを十秒間出せばなし
にすると五〇〇ミリリットルのペットボトル

約三本分の水がたまりました。今まで、平気で出しっぱなしにしてしまっていました。これからは本当に気をつけたいです。そしてこの見学で学んだ「水の大切さ」を家族に話し、家族で節水に取り組んでいきたいと思いました。

水は地球の大切な資源。安心して使えることに感謝して、決ってムダにしてはならないと強く思いました。